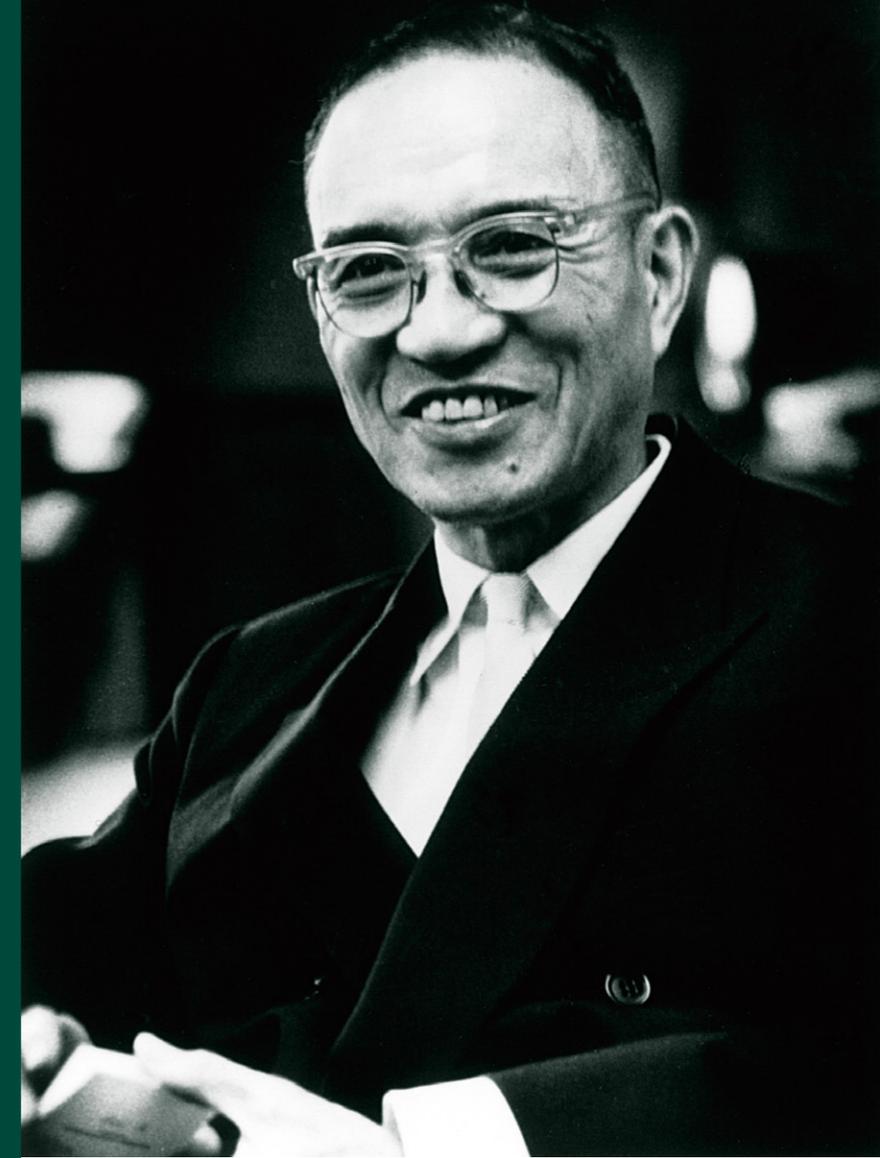


世の人々の楽しみと幸福の為に



世の人々の楽しみと幸福の為に

石橋正二郎
名誉市民顕彰会

FOR THE WELFARE AND
HAPPINESS OF ALL MANKIND

令和元年度事業報告

2019

石橋正二郎名誉市民顕彰会



石橋正二郎を偲び

墓前祭

令和元年9月11日
千栄禅寺にて開催

寺町にある千栄禅寺にて、令和元年度の石橋正二郎名誉市民（以下正二郎と記す）墓前祭を、同氏の命日の9月11日に執り行いました。

会場の千栄禅寺には100人の市民が集まり、入口には生前の写真も飾られ、正二郎を偲びました。

会場では、献花等が行われた後、出席者を代表して名誉市民顕彰会の本村康人会長が「あなたは特に、愛郷心深く、ふるさと久留米に対して限りない愛情を注がれました。今日、久留米市は文化やスポーツ・高等教育の面で全国でも高い評価を受けていますが、あなたのご貢献を抜きにしてこれを語ることはできません」と墓前に語りました。



紅葉彩る水明荘へ

「水明荘」特別見学会

令和元年11月19日
水明荘にて開催

石橋正二郎は、自然と建築を愛した人としても知られています。高良山の麓にあり、別荘として使用していた「水明荘」は、1928年（昭和3年）に土地を購入し、設計を自身で行い、1936年（昭和11年）に初代の第1水明荘が完成しました。その後、2代目となる第1水明荘は、木造・一部鉄筋煉瓦造りの2階建てで、1955年（昭和30年）に完成しました。

広大な敷地内には、杉や楓、ツツジなどの木々が立ち並び、四季折々の風景が広がります。見学会では、自然あるがままを好んだ正二郎への想いを馳せながら、紅葉彩る敷地内や建物周辺を散策しました。

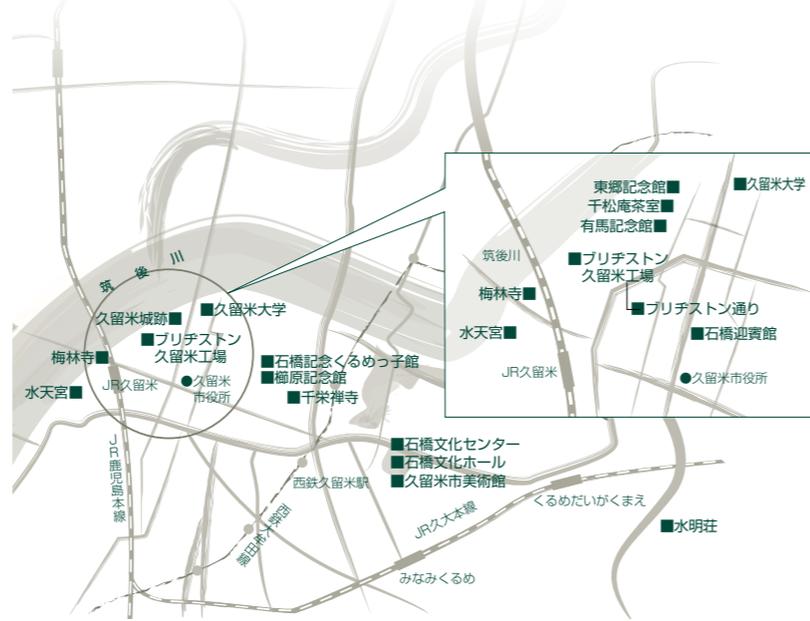


※コロナウイルス感染拡大防止対策のため、当初計画していた「ゆかりの地見学会・東京」については延期、「久留米市美術館・講演と見学会」については中止となりました。

ゆかりの地



■ブリヂストン久留米工場
1934年(昭和9年)久留米工場を建設、本格的にタイヤの生産を開始しました。



■ブリヂストン通り
1955年(昭和30年)市に寄付。季節ごとに色づくケヤキのある道は市民に親しまれています。また通りには記念碑があります。



■久留米城跡
1960年(昭和35年)城跡を整備し、有馬記念館を建設、東郷記念館、茶室千松庵などを移築・整備しました。



■石橋迎賓館(非公開)
1933年(昭和8年)石橋正二郎の兄、徳次郎の私邸として建てられました。



■榑原記念館(非公開)
1930年(昭和5年)秩父宮殿下ご夫妻の久留米ご滞在中の宿舎として建設したものです。



■石橋文化センター・石橋文化ホール・久留米市美術館
石橋文化センターの正面壁面には「世の人々の楽しみと幸福の為に」と刻んであります。



■久留米大学
1928年(昭和3年)九州医学専門学校(現・久留米大学医学部)の土地や建物を寄付。設計にも参加しました。大学内には石橋正二郎の銅像があります。



■梅林寺 梅林寺外苑
開山350年記念に梅園などをづくり1958年(昭和33年)に寄進をしました。



■石橋記念くるめっ子館
1956年(昭和31年)市長公舎として建設、市に寄付しました。2002年(平成14年)から子どものための施設として様々な活動が行われています。



■千栄禅寺
石橋正二郎の墓があります。1959年(昭和34年)に本堂庫裏を寄進。ステンドグラスの窓を使った本堂の内部やその外観には、合理性と独創性を感じることができます。



■水明荘(非公開)
自然を愛した石橋正二郎の設計による庭園があります。

人生哲学

石橋正二郎は、自伝として「私の歩み」、「回想記」、「我が人生の回想」を残しました。小島直記著「創業者・石橋正二郎」によれば、正二郎は自伝の口述筆記の際、メモの紙片を手述に述べ続け、入念な推敲を繰り返したといっています。その文章はあくまでも簡潔さをめざし、修飾による冗長(じょうちよう)を極力避けました。正二郎が選り抜いた一語一語。その自伝や好んだ言葉から、正二郎の人生哲学を読み取ることができます。

最高の品質で
社会に貢献
社是

最高の品質で
社会に貢献

1968年(昭和43)、石橋正二郎(当時・会長)の指示で社是(しゃぜ)が制定されました。

せんしばんこう
千紫萬紅

色とりどりの花が咲き揃い、撩乱(りょうらん)たるありさまは実に平和で明るい。それは巧(たく)まずしてなれる自然の姿であり、神の摂理が感じられる。世の中も、人それぞれが分を尽し処をうならば理想的といえよう。私はこの言葉が好きで、昨今揮毫(きごう)を求められてこれを筆にすることが多い。

「石橋正二郎会長随想集」より

せんざんあいすい
楽山愛水

せんざんあいすい
楽山愛水

私はこれまで造園を趣味としてきた。しかし庭造りの技法に格別詳しいわけではない。ただ、美しい自然の景観に接すると心が浄(きよ)められるように感ずるので、限られたなかに樹を植え、石を蒐(あつ)め、土を盛り、水を引いて自然の姿をここにあらわし、これが年と共に趣の生ずるのを楽しみにしている。古語に、知者(ちしゃ)は水を楽しむ、とあるが、石橋文化センター内に建造中の日本庭園もこの程完成し、その池畔の建物に楽水亭と名づけた。これは私の最近の喜びである。

「石橋正二郎会長随想集」より

げんきに学んで正しくすすむ

荘島小学校を卒業した正二郎は、「げんきに学んで正しくすすむ」という言葉を母校に贈りました。正二郎は「私の歩み」の中で、「私は小学校には6歳で入学したが、体が虚弱のため欠席がちで、ロクに運動もできなかった」と述べています。久留米市立荘島小学校は、この言葉を教育目標に設定しています。

若い人びとに

人間は学問することによって天性の才能と知恵がみがかれて、知識も広くなり、ますます良い仕事ができるようになる。人間完成のためにも、職業につくためにも学問は必要である。しかし、学校へ行かぬと学問はできないとか、また学問だけが人の運命を左右するなどと思いつてはならない。世の中は日々が学問である。心掛け次第で学歴もない人が大学卒以上の人となる。大学出だからなどと自惚れるようであれば学問は邪魔ともなろう。こういうことをよくかみわけて、家庭の事情なりあるいはいろいろのことを考えて世の中へスタートすることが大切である。

「回想記」より



BOOKLET

「石橋正二郎の生涯」

石橋正二郎名誉市民顕彰会では、次代を担う子どもたち向けに、石橋正二郎の生涯やゆかりの地をまとめたリーフレットを発行しています。ご希望の方は送付いたしますのでお気軽にお尋ねください。また、顕彰会公式ホームページからもダウンロードできます。

語り継ぐ 尊い理念や功績を深く心に刻む



石橋正二郎のあゆみ

- 1889(明治22)年 2月1日、久留米市本町一丁目に初代石橋徳次郎・マツの次男として出生。
- 1892(明治25)年 3歳 徳次郎が仕立物業の「志まや」を始める。
- 1895(明治28)年 6歳 久留米市荘島小学校に入学する。
- 1899(明治32)年 10歳 久留米高等小学校に入学する。/ 図画の代用教員だった坂本繁二郎に図画を学ぶ。
- 1902(明治35)年 13歳 久留米商業学校に入学する。
- 1906(明治39)年 17歳 久留米商業学校を卒業。兄とともに家業を継ぐ。
- 1907(明治40)年 18歳 家業の仕立物業を足袋専業に改める。
- 1908(明治41)年 19歳 久留米市内に小工場を建て、機械生産を始める。
- 1912(明治45)年 23歳 九州で初めての自動車を購入し、宣伝に使用、効果をあげる。
- 1914(大正3)年 25歳 「志まやたび」を「アサヒ足袋」と改称。20 銭均一の販売を実施。
- 1918(大正7)年 29歳 日本足袋(株)(後の日本ゴム(株))を創立して、専務取締役役に就任する。洗町の新工場が竣工する。
- 1923(大正12)年 34歳 アサヒ地下足袋を創製、販売する。
- 1928(昭和3)年 39歳 九州医学専門学校(現・久留米大学) 創立にあたり、敷地と校舎を寄付する。
- 1929(昭和4)年 40歳 日本足袋(株)の倉庫を改造して、タイヤ試作工場とする。
- 1930(昭和5)年 41歳 自動車タイヤの試作を開始する。日本足袋(株)取締役社長に就任する。/ 純国産自動車タイヤ第一号が誕生する。
- 1931(昭和6)年 42歳 久留米市にブリッチストーンタイヤ(株)を創立、社長に就任する。
- 1932(昭和7)年 43歳 自動車タイヤの輸出を始める。
- 1934(昭和9)年 45歳 ブリッチストーンタイヤ(株)久留米工場が竣工する。
- 1937(昭和12)年 48歳 ブリッチストーンタイヤ(株)本社を東京に移す。
- 1938(昭和13)年 49歳 日本ゴム(株) 創立20周年記念事業として武徳殿を建設し、久留米市に寄付する。
- 1940(昭和15)年 51歳 地下足袋の創製と量産、国産タイヤの貢献を持って緑綬褒章を受ける。
- 1941(昭和16)年 52歳 (太平洋戦争が始まり、昭和20年に終戦)
- 1949(昭和24)年 60歳 経団連常任理事に就任する。/ 天皇陛下久留米工場に行幸される。
- 1950(昭和25)年 61歳 グッドイヤー社の招きに応じて渡米、同社と技術提携の交渉を始める。日本ゴム工業会が創立され、会長に就任。
- 1951(昭和26)年 62歳 久留米大学理事長、共立女子学園理事に就任。
- 1952(昭和27)年 63歳 東京京橋にブリヂストンビル落成、ブリヂストン美術館開館。東京国立近代美術館評議員に就任する。
- 1953(昭和28)年 64歳 九州北部大洪水にて久留米工場一部浸水、製造中の自動車タイヤ用チューブを放出して人命救助する。ブリヂストンタイヤ(株)の本年度売上高は、100 億円を突破し、業界首位に立つ。
- 1954(昭和29)年 65歳 久留米大学商学部の敷地と建物の払下げ代金を寄付する。
- 1955(昭和30)年 66歳 久留米地区に従業員用アパート群、付属幼稚園、スポーツセンターなどの厚生施設完成。「ブリヂストン通り」を造成して久留米市に寄付。/ ブリヂストン吹奏楽団久留米が結成される。
- 1956(昭和31)年 67歳 ブリヂストンタイヤ(株)創立25周年を迎え、久留米工場にて記念式典を挙げる。記念事業として石橋文化センター(石橋美術館含む)、市長公舎を建設して久留米市に寄付する。/ 財団法人石橋財団を設立して理事長となる。/ ヴェネツィア・ビエンナーレ展日本館を建設寄付。久留米市より名誉市民の称号を受ける。/ 久留米商業高校に講堂武道場を建設寄付。この頃から久留米市の小、中学校21校にプールを建設寄付。ブリヂストンカンツリー倶楽部を創設する。
- 1957(昭和32)年 68歳 梅林寺外苑を造園して寄進する。/ 私学振興の故をもって藍綬褒章を受ける。/ 日本自動車タイヤ協会会長に就任する。
- 1958(昭和33)年 69歳 国立西洋美術館評議員、東京国立博物館評議員に就任する。
- 1959(昭和34)年 70歳 有馬記念館を建設、久留米市に寄付する。/ フランス政府よりレジオンドヌール勲章を贈られる。(日仏文化交流の功績による)
- 1960(昭和35)年 71歳 イタリア政府よりメリット勲章を贈られる。(日伊文化交流の功績による) / 長者番付で日本一となる。
- 1961(昭和36)年 72歳 石橋コレクション・パリ展開館式出席を兼ねて欧米に旅行。
- 1962(昭和37)年 73歳 ブリヂストンタイヤ(株)社長を辞任、会長に就任。社長に、副社長石橋幹一郎が就任する。
- 1963(昭和38)年 74歳 石橋文化センターに文化ホール、文化会館を建設し、久留米市に寄付する。
- 1964(昭和39)年 75歳 勲二等瑞宝章を受ける。
- 1965(昭和40)年 76歳 財団法人石橋財団より久留米大学附設高校の用地買収資金を寄付する。
- 1966(昭和41)年 77歳 石橋文化センターの開園10周年記念式典にて、久留米市議会から感謝決議、久留米市から胸像、久留米市民から銀製の感謝楯を贈られる。日伊協会会長に就任する。
- 1967(昭和42)年 78歳 久留米大学に医学図書館を建設寄付する。
- 1969(昭和44)年 80歳 東京国立近代美術館を竣工、寄贈式を行う。
- 1971(昭和46)年 82歳 石橋文化センターの日本庭園寄贈式に出席。最後の帰郷となる。
- 1973(昭和48)年 84歳 ブリヂストンタイヤ(株)会長辞任、相談役となる。/ 久留米商業高校に体育館建設費を寄付。
- 1976(昭和51)年 87歳 久留米市より米寿を祝って胸像を贈られ、五穀神社境内に建立される。/ 9月11日、東京日比谷病院にて死去。従三位勲一等瑞宝章を追贈される。/ 久留米総合スポーツセンター県立体育館にて、市民葬が執り行われる。遺骨は石橋家菩提寺の千栄禅寺、及び東京都多摩霊園に納められる。

入会のごあんない

石橋正二郎名誉市民の偉大な足跡と、尊い理念や功績を深く心に刻み、次世代に語り継いでいきます。

石橋正二郎名誉市民の偉大な足跡と、尊い理念や功績を深く心に刻み、次世代に語り継いでいくため、石橋正二郎名誉市民顕彰会を平成22年8月に組織しました。石橋正二郎名誉市民の理念を広く伝え、これからのまちづくりをすすめる事業を実施していきます。

石橋正二郎名誉市民顕彰会では、多くの方々のご入会を歓迎いたします。

石橋正二郎名誉市民顕彰会の趣旨や活動に賛同し、同会の組織や活動を支えてくださる会員を募集しています。活動報告としての会報(年1回)、行事のご案内をお届けします。

■申込方法

申込み用紙に記入の上、事務局へお申込みください。申込み受け後、下記の銀行口座に指定の年会費をお振込みいただくか、または直接事務局まで納入してください。申込み用紙は事務局に準備しておりますので、お手数ですがお問い合わせください。

■申込み先・問合せ先

石橋正二郎名誉市民顕彰会
〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015 石橋文化センター内
TEL 0942-33-2271 FAX 0942-39-7837

※頂いた個人情報は当会からのご案内のためのみに使用され、ご本人の許可なく第三者に開示されることはありません。

石橋正二郎名誉市民顕彰会

- | | | | |
|------|---------------------------------------|-----|-----------------------------------|
| 名誉会長 | 大久保 勉 | 事務局 | 〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015 |
| 顧問 | 永田 一伸・永田 見生 | | 石橋文化センター内 |
| 会長 | 本村 康人 | | TEL 0942-33-2271 FAX 0942-39-7837 |
| 副会長 | 中島 年隆・有馬 彰博 | | |
| 理事 | 橋本 安彦・大津 秀明・龍頭 宏典 | | |
| 監事 | 井上 益規 | | |
| 幹事 | 穴見 英三・高木 一希・竹村 政高
富澤 章・吉田 忠隆・米替 誓志 | | |

令和2年3月1日現在



世の人々の楽しみと幸福の為に

株式会社ブリヂストンの創業者石橋正二郎は、1889年(明治22)、久留米市に生まれました。家業の仕立物屋からスタートしたのち、地下足袋の創製による成功から、ついには自動車タイヤ国産化の成功などによって、日本のゴム工業の発展と技術革新に尽力しました。名誉市民 石橋正二郎が心から願った言葉があります。「世の人々の楽しみと幸福の為に」これは、人を愛し、事業を愛し、郷里を愛した正二郎の経営理念であり、人生観でした。

■年会費

- | | | | |
|---------|----|----|----------|
| 個人会員 | 一口 | 年額 | 1,000 円 |
| 団体・法人会員 | 一口 | 年額 | 10,000 円 |

■振込先

口座名義: 石橋正二郎名誉市民顕彰会事務局 井上 智貴

- | | | | |
|----------|---------|------|---------|
| 筑 邦 銀 行 | 本店 営業部 | 普通預金 | 3012027 |
| 福 岡 銀 行 | 久留米 営業部 | 普通預金 | 2755875 |
| 筑後信用金庫 | 本店 営業部 | 普通預金 | 1174358 |
| 西日本シティ銀行 | 東久留米支店 | 普通預金 | 1332464 |

※本人以外の名義で振り込まれる場合にはその旨ご連絡ください。

